



令和4年3月15日

## LDのある子どもへの支援について

リーフレット『LDのあるお子さんに対する支援「早めの気づき適切な学び」』が、長野県発達障がい者支援対策協議会の監修によって作成され、配布されています（長野県こども若者局次世代サポート課ホームページからダウンロードできます）。多くの分野の方々がつながって、全県を挙げて大事に考えていこうという、新しく大きな流れを感じることができます。

また、この流れに乗って、LDのあるお子さんに対する支援について、上伊那圏域自立支援協議会の療育等連絡会において、医療関係者へのアンケートを実施しまとめいただきました。

医療におけるLD診断がなくても、学校における支援がどんどんできるのは周知のとおりですが（文部科学省における学習障害の定義：1999年「学習障害児に対する指導について（報告）」、通級による指導の対象となる学習障害の障害の程度：2013年「756号初等中等局長通知」）、診断がないと支援できないという動きもあるようです。

この一つの要因には、大学入学者選抜大学入試センター試験の障害による配慮区分に、発達障害が追加され（2011年）、その申請書類の一つとして、診断書が求められていることが影響しているかもしれません。ただし、ご存じのように、もう一つの申請書類として状況報告書があり、日頃積み上げてきた実績がないと申請はできません。高等学校段階で実績を積むには、中学校段階の取組が必要不可欠です。更に、中学校で取組を始めるには、小学校段階でそのヒントを見出しておく必要があります。診断のタイミングに左右されずに、必要な支援をどんどん始めることが、将来の可能性を広げることにつながります。

新たな大きな流れの中で、今一度、LDのある子さんの支援が再構築されることに、期待を寄せています。そこには、「かみとくれん」の多くの分野の方々のつながりが、大きな支えになることは言うまでもありません。将来の可能性が広がる取組に、皆様のお力添えをよろしく願います。

かみとくれん会長 齋藤 良直（伊那養護学校）

## 本年度の活動から

### ○かみとくれんサポート会議「サマースクール」

本年度の、かみとくれん「サマースクール」は7月31日（土）、Zoomによるオンライン形式で行われました。福祉・教育・歯科・医療・療育の各分野について、授業形式の講座が設置され、参加したい講座を選んで参加できるようにしたところ、146名の参加があり充実した研修を行うことができました。「Zoomだったので、休日でも参加しやすかった。」というご意見があった一方で「人と人がつながるためにも、来年は通常の形に戻るといい」というご意見もありました。

そこで、来年度の「サマースクール」については、今のところ次のような形式で実施することを予定しています。

#### 2022年度（令和4年度） かみとくれんサポート会議「サマースクール」 計画

期日：7月30日（土）〔予定〕

会場：伊那養護学校 〔予定〕

形式 ・例年のように、各分野による学習会「サマースクール」形式で実施。

- ・基本的には参集型で行う予定だが、コロナウィルス感染警戒レベルによっては、オンラインと参集型併用またはオンラインのみの計画も視野に入れて実施する

### ○「なかよし作品展」（上伊那小中学校特別支援学級・特別支援学校児童生徒作品展）

本年度の、「なかよし作品展」は11月11日（木）～15日（月）に実施しました。例年、「いなっせ2階ギャラリー」で開催されていましたが、本年度は会場確保の関係で「伊那市創造館」で開催しました。上伊那郡内の小中学校、特別支援学校のうち、41校（出品児童生徒数697名）からの出品があり、473名の来場者を迎え、盛大に開催されました。地域の方々に、子どもたちの作品を見て頂くことで、特別支援教育への理解を深めて頂くとともに、子どもたち同士が互いの作品を鑑賞し合い、次からの意欲につなげるという点において、すっかり定着した作品展となっています。

会場の「伊那市創造館」のホールは十分な広さがあるため、全作品をゆったりと展示することができ、来場者の皆さんにも、ゆっくりと作品を鑑賞して頂くことができました。一方、駅から離れた立地条件ということもあり、来場者数は例年より少なかったということもありました。来年度は、これまで通りに「いなっせ2階ギャラリー」を会場として、10月27日（木）～11月1日（火）に実施する予定です。

### ○特別支援教育委員会による教育研究

「かみとくれん」所属の「上伊那教育会 特別支援教育委員会」では本年度、特別支援教育の授業研究、教材研究等の活動を行ってきました。上伊那教育会において、「各委員会の活動の中心は教育研究におく」という改革が提言されたのをうけ、初年の今年度は、各委員が実践や教材紹介を持ち寄って、それを発表し合い、意見交換を行うという形で研究を行ってきました。

今回、本誌では、その中から二つの実践事例（新山小学校：北澤淳子先生、伊那養護学校：竹内恵理華先生）を紹介させていただきます。

なお、この他の実践事例につきましては、上伊那教育会 特別支援教育委員会のホームページに掲載しますので、ぜひご覧下さい。

ここでは、特別支援委員会の教育研究に寄せられた実践事例、2点を紹介させていただきます。

## 教材紹介 「4コマ漫画作文」

新山小学校

北澤 淳子

『国語のできる子どもを育てる』(工藤順一著)で提唱されている**4コマ漫画作文**です。通常学級でも扱ったことがありますが、自情障学級高学年のグループ学習で行ったところ、とても意欲的に取り組み、自分の作文に取り込んでいく姿勢が顕著に見られました。

題材にしたのは・・・『コボちゃん』植田まさし著

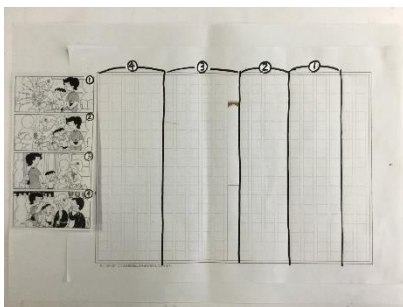
「いたずら編」ですが、主人公コボちゃんは大人を貶めようとか、いたずらをして楽しもうという意図は全くないのです。ただ大人の言葉を字義通りに受け取り、その思惑とずれた行動をとってしまい、結果として大人が右往左往するという話がたくさんあります。

時に相手を思い一途に行動したのに、裏目に出てしまうこともあり、子どもにしてみたら「こうなるよな」と共感を覚える内容だと思います。

また、コボちゃんが言葉や見たものから連想する物がユニークで新鮮味があり、楽しめます。



### 授業展開



- ①200字詰め原稿用紙へ、1コマずつの漫画を文章に置き換える。
- ②交換して読み合い、いいなあとと思う所へ赤線を引き、余白へコメントを添える。
- ③友だちの作文の良さを発表し合う。

### 良かった点

- ・ 題材が決まっているので、とりかかりが良く、短時間で抵抗感なく書ける。
- ・ 共通の題材を扱い、各々の目の付け所や解釈、表現が異なる作文を読み合うことで、見方や表現に幅が出てくる。認められたことは、また使ってみようという意識付けができるし、友だちのいい表現は、自分の作文に取り入れてみようと思わしている。
- ・ 教師も同じ立場で加わると、教師の作文を読むことで、さりげなく語彙を増やしたり、見方を広げたりすることも期待できる。
- ・ 書いて、すぐ認められるような授業展開にもっていけるので、子どもたちの自信につながりやすい。
- ・ 登場人物の思惑の食い違いを説明するために、気持ちを想像することがふえる。そして、それぞれに思いや考えは自分と異なることもあるということを、学んでいける。
- ・ 漫画には起承転結の転にあたる部分が必ずあるので、日頃、「一生懸命～しました。」「結果、～になって良かったです。」という単調な流れの作文しか書けなかった子どもが、そこへ、「ところが」や「しかし」などの逆接の接続詞を使いながら、順風満帆で行けなかった部分、最も自分が心を砕いた部分の描写を加えようと、文章構成の仕方に変化を見せた。



## iPad の活用 ～ key note をつかった支援 ～

長野県伊那養護学校 竹内恵里華

### 【事例】

自閉症の男子生徒 A さんは、日頃から集団での活動が難しく給食の時間以外はほぼ教室には入らず、静かな場所や好きな空間を見つけて過ごしている。以前は思い通りにいかなかったり、自分の要求が満たされなかったりすると、他害や自傷、癩癩を起すことも多くあった。

A さんは学校の敷地内にある寄宿舎の建物に入りたい思いが強かった。「寄宿舎の人しか入れません」という理由を職員から聞かされていたが、それでは納得できず、日々入りたい気持ちを抑えられずに、癩癩や他害につながることもあった。そこで口頭で「唾はタオルに吐くよ」等の約束を伝えたが、わざと床に唾を吐く姿も見られるようになった。A さんはひらがなが読める生徒だったので、生徒が携帯している iPad の key note を使い、イラストと文字を使って「どうしたら入れるのか」を下記のように伝えることにした。



上記の画面を見せながら職員が話をすると、よく画面を見て、その日以降は自分から「足が汚い人はだめ!」「女子棟はだめ!」と笑いながら職員に伝え、寄宿舎に入ろうとすることは、ほとんどなくなった。そんな中でも、時々入りたくなくなってしまった時に、職員が上記の約束を確認すると癩癩を起すことなく、寄宿舎に入れないということに納得できるようになった。

### 【まとめ】

日頃から口頭での簡単な指示を理解することはできるが、視覚的に伝えることが A さんにとっていかに効果的かを実感した。今回の事例以外にも、調理の手順や当日の急な変更、約束事など日常的に key note を使って説明しているが、画面をよく見て理解して行動している姿が見られる。また、以前は思い通りにいかない癩癩を起していたことも、イラスト付きで理由を伝えると、納得して受け入れられるようになり、自傷はなくなり、癩癩や他害もほとんど見られなくなった。Keynote はパソコンの PowerPoint のようなアプリなので使い方も簡単で、いつでもどこでも視覚的に A さんに大切なことを伝えることができる。このことが、A さんにとって安心して学校生活をおくれるための 1 つのであるように感じた。